

平成28年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 笠岡市真鍋島で学ぶ地域実践型学習

団体 地域について学ぶ実践型ゼミ

担当者名 泉原康平

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

1、活動日時、場所

(1) 文献学習

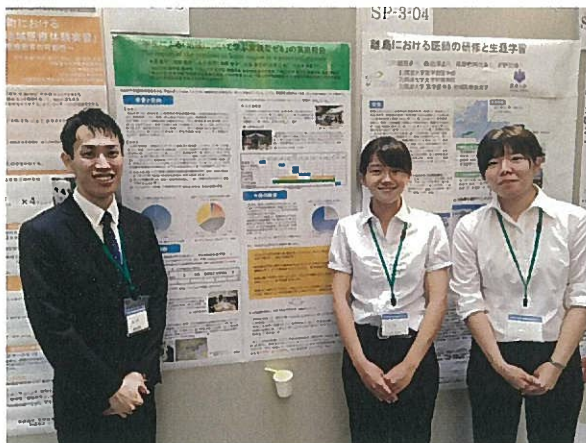
日時：各月の第1、第3火曜日 19:00～21:00（5月、1月は第2、第4火曜日）

場所：岡山大学 鹿田キャンパスMASCAT CUBE 又は、管理棟カンファレンス室

(2) グループテーマ学習

2016年5月笠岡六島大運動会 三大企画

2016年7月医学教育学会



学生ポスター発表

2016年8月真鍋島の子どもたちと美作大学との合同キャンプ

2017年3月 真鍋島での年次活動報告会



その他学習のために必要に応じて真鍋島にて調査を行った

2、参加対象者

岡山大学（医学科、看護科、放射線技術科、環境理工学、教育、法）と川崎医療福祉大学（社会福祉専攻）の学生全12名

3、内容

ゼミの学習活動は主として以下の2点で構成される。

（1）文献学習

本学習の目的は地域とは何なのかについて概論的に学び、幅広い視点と想像力を養うことである。特定の文献・テキストを選定し、各回の担当者がテキストの要約と、その内容興味をもった箇所を別の文献等で調査し、自学した内容をゼミで発表する。発表後にはその内容に応じたグループワークを担当者がデザインし実施する。テキストについては、4月から7月までは、山崎亮『コミュニティデザインの時代』、9月から2月までは朴洋一『問いからはじめる社会福祉学』を用いた。



岡山市を舞台に ロールプレイをしよう！

▶ Rule

全員が参加できるようにしよう
ネット＝地域ゼミのグループLINEで
ネット×の人はスマホ禁止です！

▶ Goal

全員が何かしら利益を享受できる
民間団体をつくる！

(2) グループテーマ学習

本学習の目的は、地域に関する情報を集めるノウハウを学ぶことと、実際に地域に入って調べ学習を行うことで、人々が「生きる」ということはどういうことなのかを実感することである。真鍋島フィールドワークを通じて学びたいテーマを各自が設定し、その興味により、医療福祉／暮らしの2グループに分類した。各グループは各々テーマを設定し、それを1年間かけて文献調査、真鍋島での聞き取りなどを行った。ゼミでは適宜各グループの進捗状況の報告を行い、調べた内容や考察をまとめ、3月5日に真鍋島で行った報告会にて島民の方々や学生に報告をした。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

今年度行った「グループテーマ学習」は、1年間の学習で終始せず、この1年間の活動で得たその地域に関する知的財産、そして活動の中で築かれた地域住民と学生との間の信頼関係を次の年度にも生かしてさらなる高度な学びや経験を得られるような仕組みとなっている。したがって、年度が積み重なるごとに地域と学生との関係が密になり、新しい企画や取り組みが始まるのが期待され、学生にとっても大学の授業で得ることの難しい「地域での学び」を得られる場となるのが期待される。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

以下参加学生の感想を掲載する。

医学生

地域の一員として住民に寄り添うためには、自分の専門性をしっかりと磨くことが大切だということを改めて実感した。また、他分野への理解の必要性も強く感じた。

教育学部生

地域の人と接したり、他学部の学生と共に学び多様な生き方を知ることで、自分の生きた方や社会との関わり方について深く考えることができた。

看護学生

地域ゼミの活動を通して、学ぶ機会のなかった分野についてじっくり考える事ができ、視野を広げることができた。

4. 今後の課題と展望

来年度も今年度と同じく「文献学習」、「グループテーマ学習」の2本柱で活動を継続していきたいと考えている。また、今年度の活動で地域住民と学生との間の距離感が縮んだこともあり、来年度はグループテーマ学習の中で地域の役に立つような企画や取り組みを地域住民と一緒に考え実行していきたいと考えている。そして、それらの取り組みを岡山大学等で地域における活動・学習のモデルとして提示し、地域で活動すること・学習することの魅力や意義を伝えることによって、岡山市を中心として岡山県全体でそのような流れが生まれるように努めていきたいと考えている。